

ドングリを育て緑の森を創ろう

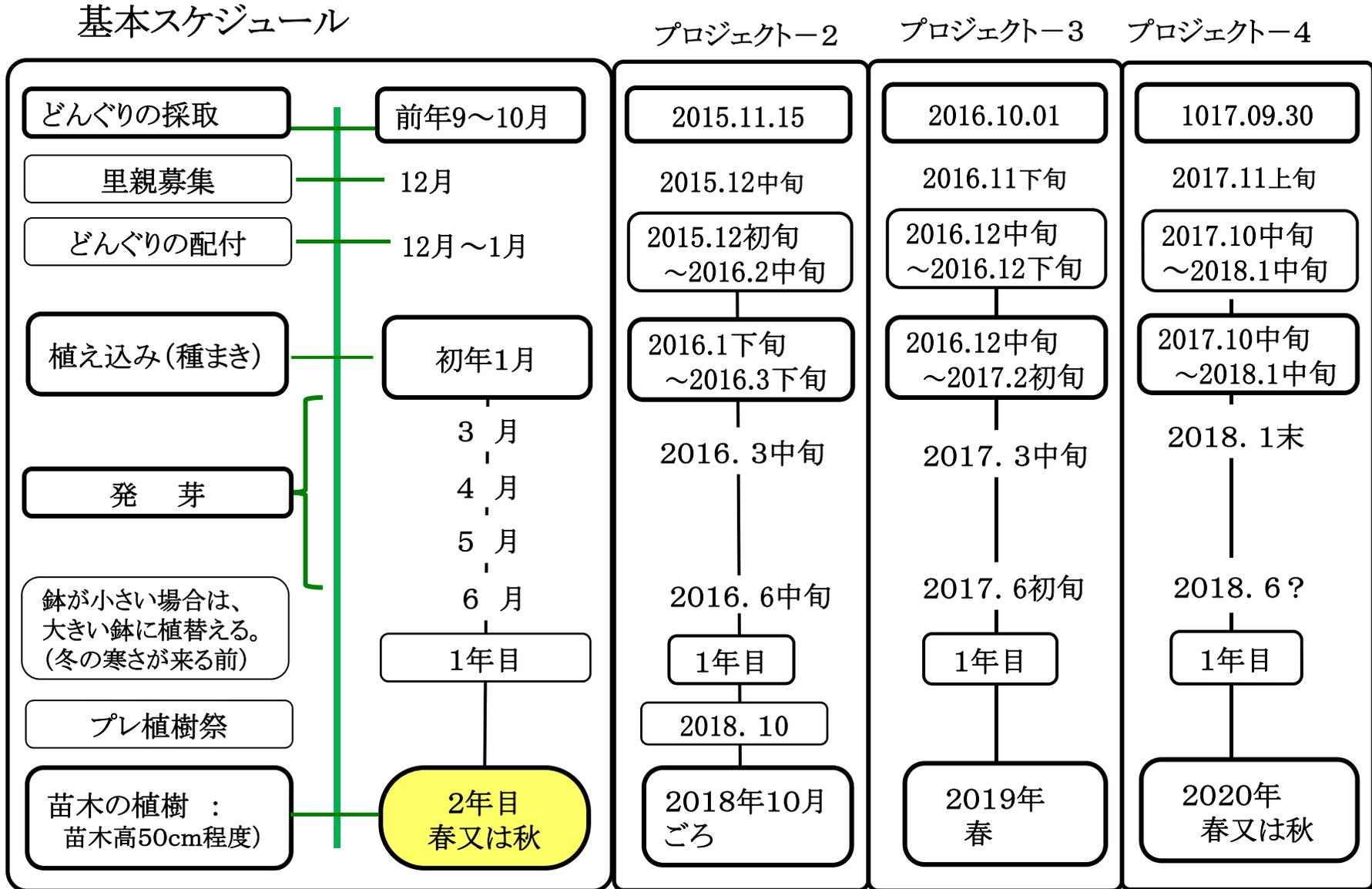
=どんぐりの入手から植樹まで=

EVF ころころプロジェクト 事務局

作成 2016年12月

改訂2 2018年 2月

1. どんぐりの入手から植樹までの基本スケジュール



里親育苗記録

メモ

「どんぐり」の採取
:事務局が中心となり、
採取します。

秋

「どんぐり」の入手日

年 月 日

植え込み(種まき)

年 月 日

発 芽

年 月 日

鉢が小さい場合は、大きい鉢
に植替える。
(冬の寒さが来る前に)

年 月 日

苗木の植樹:
2年目春又は秋

年 月 日

Large empty rectangular box for notes.

2. どんぐりの採取

1. 落果している「どんぐり」の選別法

(1) 採取時の選別

1) 先端はとんがっており、表面の皮は硬く、上部はすべすべして茶色、下部はぶつぶつした薄めの褐色のものを採取する。

2) 水溜りに浸かっていたどんぐりは選択しない。
発芽能力を失っているか、直ぐに発芽する。

(注) 発芽(発根)しているどんぐりで、発根先端が変色しているものは、廃棄する。

(2) 拾ってきたどんぐりから、次のものは取り除く。

1) 熟していない青いもの。

: 未熟果であり、発芽しないことが多い。

2) 表面の殻に穴があるもの。

: 虫が侵入している。

3) 軽いものや殻に割れやひびが入っているもの。

4) 水に入れて浮かぶどんぐり

: 発芽能力が衰えている。選別後はどんぐりを乾かし、表面の水分を取り除く。

5) ゆすってみてコロコロ音がするもの。

2. 樹になっっているどんぐりの選別法

1) 未熟などんぐり、青緑色のどんぐりは採取しない。

2) 穴の開いているどんぐりには食害する昆虫が居るので、採取しない。

3. 採集された「どんぐり」の保管

(1) 「どんぐり」の種子を、乾燥しないように密閉容器を用いて保存する。

どんぐりは堅果で外側が非常に堅く、水分も酸素も透しにくい。

乾燥によりヒビが入りやすくなるので、乾燥させすぎないこと。

(2) 湿っているどんぐりは冷蔵庫で保存する。

カビの発生を防ぐようにする。

また、浸漬したままだと、酸素不足となり発芽しなくなる。



地上に落ちているものよりも、樹上で熟しているどんぐりのほうが発芽率は良い。

踏まれてどんぐりが割れる、虫による被害が少なくなるからである

3. 1 どんぐりの植え込み(種まき) <準備>

1. 用意するもの

1) 容器

園芸用ポット、ペットボトル(底に穴を開ける)、植木鉢など

2) 土はどんな土でも構いません。

指定はありません。

(気にされるなら、培養土か赤玉土6腐葉土4を混ぜたものが良いでしょう)

何故ならば・・・

1) 容器を使用すると、根が容器内に張ります。植え替え時に根を痛めることが少なくなります。

2) 地植えすると大きく根を張ります。植え替えに手間がかかります。

3) 土に栄養が無くても大丈夫です。どんぐり内部に蓄えられています。

2. 配布されたどんぐり

1) 少し発根しているどんぐりは、そのまま植え込みします。

2) まったく発根していないどんぐりは濡れた新聞紙など2日程包み室内に保管してください。その後に種まきします。

何故ならば・・・

1) 発根しているどんぐりは眠りから覚めています。

2) まったく発根していないどんぐりは、まだ休眠中です。目を覚ます為に水分が必要です。

3.2 どんぐりの植え込み(種まき)

1. 土を入れる

何故ならば・・・

容器の上から1～1.5cm位まで土を入れます。

遊びがないと移動時に土がこぼれて、どんぐりがむき出しになる可能性があります。

2. どんぐりの植え込み

何故ならば・・・

<植え込み方法 その1>

- 1) 指でどんぐりの2倍程度の深さの穴を開ける。
1穴に1粒を横向きに押し入れる。
- 2) どんぐりを土で覆う。

<植え込み方法 その2>

- 1) ポットに2～3cm位、土を入れる。
 - 2) どんぐりを横向きに置く。
 - 3) 容器の上から1～1.5cm位まで土を振りかける。
- 3) 小さいポットならどんぐりを1つ。

- 1) どんぐりは尖った方から発芽します。自然の中では、地上に落ちたままの横向きの姿勢で発芽します。
穴に挿入する時、尖った方が下に向く恐れがあるので、横向きに植えて下さい。
(注) 横向き植えが難しい場合、<その2>で植え込みして下さい。

- 2) 土で覆う目的は、乾燥防止です。
どんぐりを地中深く埋めと酸素欠乏になり、根や胚軸、葉が成長が遅くなります。

- 3) 植木鉢や大きな容器を使う場合は、1つに拘らず、同じ間隔で複数個まいて下さい。

3.3 どんぐりを植えよう <水やりと管理>

5. 水やりをする

- 1) ポットの底から水が流れ出るまで水やりをします。
- 2) 表土が乾燥しない程度に、水やりをしてください。

何故ならば・・・

- 1) 土に均一で十分な量の水を含むようにするためです。
- 2) 土の表面の乾燥を防ぐことが目的ですので、新聞紙などを被せるのも良い方法です。

6. 発芽までの管理

- 1) 凍結させない。
寒い日は室内に置いて下さい。
- 2) 乾燥させない。
土が湿っていればOKです。
- 3) 水を与えすぎない
水没状態にしない。
- 4) 動物に食べられないように、コンクリートや板の上に置く。

何故ならば・・・

- 発芽条件は温度・水分・酸素です。
- 1) 温度: 凍結で細胞が破壊される。
 - 2) 水分: 不十分だと、生育が遅れる。
 - 3) 酸素: 水没状態だと、酸素欠乏になる。その結果、呼吸によるエネルギー生産が減少して生育が遅れる。
 - 4) 動物はどんぐりが大好きです。
下からネズミが入り込まないようにするためです。

4.1 発芽してからの管理

芽が出たら

- 1) 暖かくなったら(2~3月)ポットを日当たりと風通しの良い場所に置く。
- 2) 表土が乾燥したら、水やりをする。朝か夕方の方の1回程度。
- 3) 夏場は直射日光を避け、日陰に置いて、水は多めにあげます。
- 4) 肥料は、発芽後に入れて下さい。
固形肥料: 目安 約1g/苗
液体肥量: 注意書通りに希釈します。
月に1回程度上げて下さい。

注意点

秋になると落葉しますが、枯れた訳ではありません。水やりを続けてください。

何故ならば・・・

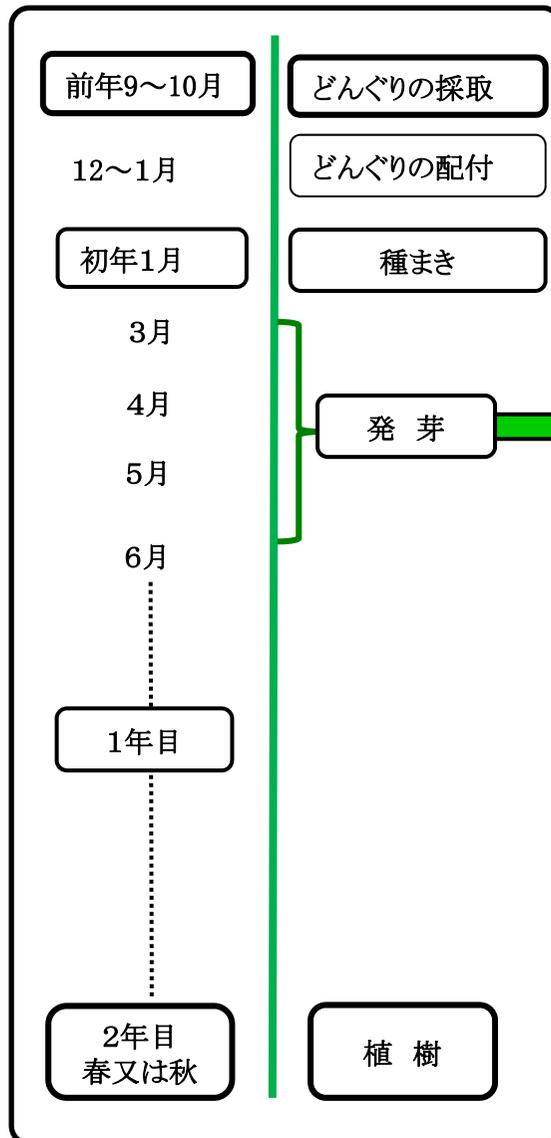
- 1) 春はまだ気温は低いので、日当たりに出し、ポットの土の温度を上げて下さい。温度が上がると成長が良くなります。
- 2) 水分が少ないと、吸収した養分の移動が遅れ、成長を抑制します。
- 3) 光が強すぎると、葉に障害が生じます。
- 4) 肥料が多すぎると葉は枯れます。過ぎたるは猶及ばざるが如しです。浸透圧が高くなり、水分吸収量が少なくなります。成長が悪いときは施肥してください。肥料は固形肥料が便利で、年1回程度で十分です。

苗を送る

どんぐり苗が成長した時期に、事務局から苗の送り方や送り先について連絡がいきます。

4.2 発芽してからの管理

発芽して葉が出てきてから苗の管理



1. ポットを日当たりと風通しの良い場所に置いてください。
2. 土の表面が乾いたら、水やりしてください。
3. 晴天の日は、昼間に水やりは避けて下さい。朝や夕方の日差しが強く無いときに水やりしてください。
4. 日差しの強い日は、直射日光を避け日陰に置いて下さい。
5. 肥料は年に一回程度、少量与えてください。
6. 秋になって落葉しても、枯れていません。水やりを続けて下さい。
7. 葉に虫がついたら、取り除いてください。箸で摘まむと簡単です。
8. ポットサイズが小さく、苗が倒伏するようであれば、大きなポットに植え替えてください。

(補足説明)

- 1) 日差しが強すぎると、葉焼けを起こし、部分的に褐変してきます。
- 2) 日差しが強いときに水やりすると、葉の上で水が球状になり、集光して、葉にダメージを与えます。レンズで光を集めると熱くなるのと同じです。